

## 放山と高松山

参加者：内田単独

### 1. 放山 2019(平成 31)年 3 年 29 日(金)

コース：3/2 の会山行パーティーとほぼ同じ「放山北尾根」

シャルマン火打スキー場 9:30—放山頂上  
10:20=11:15～南又橋 12:45—スキー場  
13:15

半日の山スキーを楽しんだ後、車で、笹倉温泉へ移動。

早速入浴。最初は、杉板張りの「露天風呂  
風展望風呂」へ。次は、屋外に三つある信楽  
焼の陶器壺風呂へ。泉質は、重曹泉。四つの  
湯にゆ～たりと浸り、あ～幸せ・幸せ！

このまま、お泊り～、となれば言うことな  
しなんだけど、ボンビーなので、恐る恐る温  
泉の方に、「駐車させた車に車中泊は？」と  
尋ねる。なあ、なあんと『いいですよ！』の  
返答。てなわけで、車中泊をさせていただきました。



陶器壺風呂

### 2. 高松山 2019(平成 31)年 3 年 30 日(土)

コース：笹倉温泉 5:35—九十九折林道—アマナ平 8:45—高松山頂上手前の尾根 1563m  
付近 11:05—往路下山—笹倉温泉 13:00

早朝に笹倉温泉をスタート。駐車場を  
出て少し歩き、除雪車のキャタピラ跡が  
残る林道をたどる。

焼山北面台地の末端の火打山川に架か  
る橋を渡って、九十九折の林道を適当に  
ショートカットしながら

登ると斜面が平坦になる。山腹の林道  
をアマナ平へと進む。



取付尾根

途中で、追いついてきた4人パーティと話をする、何と東京へ転勤した藤田さんが所属する山スキー同志会の方達だった。焼山を目指す4人とは、アマナ平で別れる。

4人と別れた地点から、更に南下する林道を右に少し進み山腹を回り込むと、火打山川を隔てて高松山への取付尾根が見える。



林道から雪が詰まった火打山川の堰堤下を左岸へ渡ると取付き点である。ここから、高松山を目指す。

取付尾根には、2人パーティが先行する。尾根の斜度は結構急で、しかも雪は水分が多い湿雪。そんな尾根を、シールを効かせながら登っていくと、傾斜は落ちやや広い尾根になる。どんどん登っていくと尾根からの展望が開け、左手にどっしりと焼山が聳える。1400m 辺りまで来ると、左からの風を強く受けるようになってくる。

尾根が西に向かうと、野谷庄司の東尾根に似てるなどと思いながらシール登高で進んでいく。1500m 辺りでは、南西からの強風が吹き付け、時には、耐風姿勢を強いられる。このまま頂上を目指すべきか考える。先行する二人を見ると、頂上へ続くやせ尾根の登高を苦労しているようである。風は顔を横向ける程の強風。この二つのことから、即下山を決断。高度計を見ると 1563m 付近であった。

下山時に、少し前にいるボーダーの様子が余り山慣れしていないようなので、一緒に下山することを勧める。彼は、素直に納得したので、安全な所まで一緒に下山する。

1400m 辺りの安全なところで別れ、往路を下山し、午後の1時頃に笹倉温泉へ帰ってきた。

車の中の荷物などを整理してから、駐車場で車中泊させていただいたお礼に、料金を払って入浴をする。湯船の中では、登頂は果たせなかったのに、何故か充実感が湯の温かみと共に伝わってきた。